

糖尿病地域連携：CDEJ に望むもの

福岡大学病院内分泌・糖尿病内科 安西慶三

病院と診療所の連携（病診連携）は、紹介・逆紹介という単回のものが一般的です。しかし慢性疾患である糖尿病では、時間経過で変化する多様な治療に対応するために、それぞれの医療機関が役割に応じて機能分担し、情報を交換しながら患者を地域全体で診療する循環型地域医療連携が求められます。かかりつけ医は初期・安定期治療を担当し、食事や運動の指導、行動変容の支援および内服薬療法・インスリン導入後の外来管理を行い、基幹病院はコントロール不良例の治療、合併症の検査・治療および治療方針の決定などを行います。その基本となるのは地域の実情に応じて作成された地域連携パスです。地域一体となった糖尿病治療のためには、診療方針の統一化、標準化および患者の状態の正確な把握と、無駄な検査をしないための情報の共有化が重要です。同一方針で診療や管理を行わなければ、患者は不安や不信感を抱いてしまうからです。連携パスは連携医療の標準化・適正化を図るための極めて有用なツールといえるでしょう（図1）。しかしながらシステムができて実際に運営する人材がいなければ成果はありません。糖尿病治療の基本理念は「患者が自分自身の主治医となり最終責任は自分にあることを受け入れ、積極的に前向きに治療に取り組む自己管理能力を身につけること」です。この理念に沿って行う糖尿病教育は単なる知識の切り売りではありません。このような理念を持ち、かつ糖尿病の専門知識を持った糖尿病療養指導士と共同で患者教育・治療を行うのが最も望ましい診療体制です。しかし糖尿病療養指導士の絶対数は不足しており、かかりつけ医が機能分担すべき行動変容の支援や食事療法などの療養指導を十分行えないのが現状です。この問題を解決するには糖尿病専門職の人数を増やすとともに、人材を効率よく活用する必要があります。

図1 糖尿病地域連携の循環型医療体制

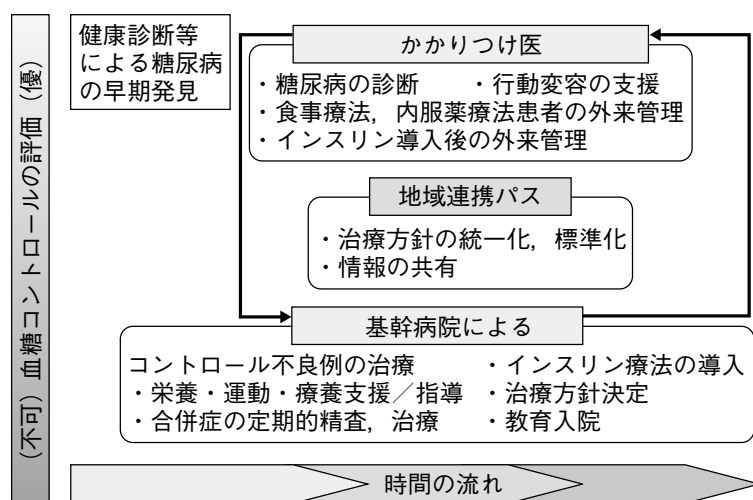


表1 石川県、佐賀県における糖尿病関連データ

	人口	糖尿病専門医	日本糖尿病療養指導士	糖尿病看護認定看護師	糖尿病認定教育施設
石川	117万	56	370	2	8
佐賀	86万	18	35	0	1
全国合計	12769万	3936*	13643	201*	540
		日本糖尿病学会ホームページ H21.2.9 現在	日本糖尿病療養指導士認定機構ホームページ H20.6.20 現在	日本看護協会ホームページ H21.6.5 現在	日本糖尿病学会ホームページ H21.1.30 現在

* 所属先未登録者を含む

※全県のデータは別途掲載していますのでご参照ください。

糖尿病専門職としては、糖尿病学会専門医、日本および地域糖尿病療養指導士、糖尿病看護認定看護師、さらに糖尿病専門医療機関として糖尿病認定教育施設があります。全体的にみても専門職の絶対数が不足していますが、地域差があり、CDEJは人口10万人当たり最も多い石川県の31.6人から最も少ない佐賀県の4.1人まで様々です（表1）。早急にすべての糖尿病患者が専門的教育・指導や治療を受けられる医療体制を整備するためには、非糖尿病専門医であるかかりつけ医が取得可能な糖尿病協会登録医・療養指導医を育成していくことと、その過程で医師および医療機関に糖尿病療養指導士との共同診療の必要性の認識を強め、糖尿病療養指導士の職場を病院から診療所まで広げなければなりません。また、CDEJの皆さんにはご自分の職場に限らず、外にも目をむけた活動をお願いしたいところです。

さらに、今後、糖尿病医療地域連携システムを進めるために、糖尿病療養指導士の雇用を望む医療機関と専門職を生かせる職場を望む糖尿病療養指導士を結ぶ就職情報システムを構築し、人材を効率的に活用していくことが望まれます。